



# 評価医養成のための 摂食嚥下研修会 ステップⅡ

**対象** 医師・歯科医師

**定員** 56名

**プログラム**

研修コード **A12-2**

**開催日時** 令和6年5月26日(日) ①10:00～11:00 ②11:05～12:05  
③13:10～14:10 ④14:15～15:15

**申込期間** 令和6年4月22日(月)～5月20日(月)

## ① 摂食嚥下障害に関する頸部聴診法

昭和大学 名誉教授 高橋浩二  
医療法人徳洲会 館山病院 口腔機能リハビリテーションセンター長

頸部聴診法の知識を深め、実習によって頸部聴診の手技、判定法を理解します。

## ② 摂食嚥下障害の外科的治療

Swallowish Clinic 院長 金沢英哲

嚥下障害が高度な場合には「肺炎を回避するための誤嚥防止手術」が必要となります。手術選択におけるポイントと手術手技を紹介し、具体的症例を提示・解説します。

## ③ 摂食嚥下障害への食事時の姿勢の保持の 対応法

高崎健康福祉大学 保健医療学部 理学療法学科 教授 吉田 剛

姿勢が嚥下機能に影響を与えるメカニズムを知り、嚥下しやすい状態にするための、座位姿勢保持に必要な要素、呼吸との関連性、嚥下筋の運動学などの基礎知識、シーティングに関する基本的知識などを学びます。

## ④ 摂食嚥下障害への栄養管理について ～代替栄養法の適応と管理～

医療法人社団 ふけ会 富家千葉病院 摂食嚥下センター長 我妻将喜

嚥下障害などの口腔・咽頭機能低下のあるオーラルフレイルが持続するとサルコペニア・要介護状態になりやすく、最終的生命予後にも影響します。適切な栄養評価を行うことを学びます。